

重要情報シート公表に向けて

2020年8月に金融審議会市場ワーキング・グループから「顧客本位の業務運営の進展に向けて」という報告書が公表されました。その主旨の中核が、既存の「顧客本位の業務運営に関する原則」の金融業界内における形骸化状況に鑑みた改定案で、その中に顧客との利益相反も含め金融商品・サービスに関する重要な情報を簡潔に記載した、顧客にわかりやすい情報提供を図るための「重要情報シート」の活用が提言として盛り込まれました。

本来当該シートは金融事業者横断的な共通書式を前提としていますが、未だ業界内で導入の目途が立っていません。もとよりセゾン投信は「お客さま全部主義」を経営理念の根幹に掲げ、顧客本位の実践を事業モデルの支柱に据えており、今般業界スタンダードの実施に先んじて、当社独自のオリジナル「重要情報シート」を作成し公表することにいたしました。

今後、お客さまがセゾン投信を通じた長期投資の旅へのご参加を検討されるうえで、当該「重要情報シート」を是非にご活用くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

セゾン投信 代表取締役会長CEO 中野 晴啓

1. 当社の基本情報 (当社はお客さまに金融商品の販売をする者です)

| | |
|-----------------|---|
| 社名 | セゾン投信株式会社 |
| 登録番号 | 関東財務局長(金商)第349号 |
| 加入協会 | 一般社団法人投資信託協会 |
| 当社の概要を記したウェブサイト | https://www.saison-am.co.jp/ |

2. 取扱商品 (当社がお客さまに提供できる金融商品の種類は次のとおりです)

| | | |
|-------------|-------------|---|
| 預金(投資性なし) | 預金(投資性あり) | |
| 国内株式 | 外国株式 | |
| 円建債券 | 外貨建債券 | |
| 特殊な債券(仕組債等) | 投資信託 | ○ |
| ラップ口座 | ETF、ETN | |
| REIT | その他の上場商品 | |
| 保険(投資リスクなし) | 保険(投資リスクあり) | |
| これら以外の商品 | | |

3. 商品ラインナップの考え方 (商品選定のコンセプトや留意点は次のとおりです)

| | |
|---------------------------|---|
| 考え方 | <p>資産形成の時間の経過に耐えることができる長期保有型の投資信託だけをご用意し、お客さまの一生にわたる資産形成に貢献したいと考えております。それぞれのお客さまにとって、受け入れることができる価格変動リスク(価格の変動幅)が異なるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ■国内外の株式と債券に投資するインデックスファンドを活用したミドルリスク・ミドルリターン型バランスファンド「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」 ■長期的な視点で国内外の個別銘柄の価値に着目して投資を行うハイリスク・ハイリターン型株式ファンド「セゾン資産形成の達人ファンド」 <p>の2本の商品ラインナップとしております。</p> <p>そして、上述の2つのファンドを組み合わせることにより、お客さまが受け入れる価格変動リスクと期待リターンの大きさを調整することができます。</p> |
| 2つの商品に共通するコンセプト | <p>①日本のみならず地球規模で幅広く投資を行うことが長期的に安定したリターンを生み出し、リスクを低減することにつながります。</p> <p>②景気や金融市場の動きを予測した投資手法では優れた成果を継続的に生み出すことが難しいため、「インデックスファンド」もしくは「長期的な視点でのみ投資を行うアクティブファンド」を長期的な資産形成に適した投資対象として採用します。</p> |
| 当社商品ラインナップには存在しない考え方 | <p>①その時々で人気がある商品に乗り換えていくことは、お客さまの利益にならないと考えているので、販売額を増やすことだけを目的に商品を追加することはありません。</p> <p>②長期投資こそ生活者の資産形成にふさわしい投資手法と考えているので、短期での利益確定を求めるお客さまに相応しい商品をご提供しません。</p> |
| 投資リスクを軽減するために、当社が推奨する投資行動 | <p>1. 「定期積立プラン」による購入</p> <p>2. 長期投資</p> <p>3. 定期換金サービス「セゾン定期便」の活用(資産を取り崩し定期的に売却する場合)</p> |

4. 苦情・相談窓口

| | |
|-----------------|--|
| 当社お客さま相談窓口 | ○セゾン投信お客さま窓口 03-3988-8668 |
| 加入協会共通の相談窓口 | ○個人情報に関する苦情について 一般社団法人投資信託協会 投資者相談室 03-5614-8440 ○金融商品取引等に関する苦情等について 特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター (FINMAC) 0120-64-5005 |
| 金融庁金融サービス利用者相談室 | 0570-016811 (03-5251-6811) |

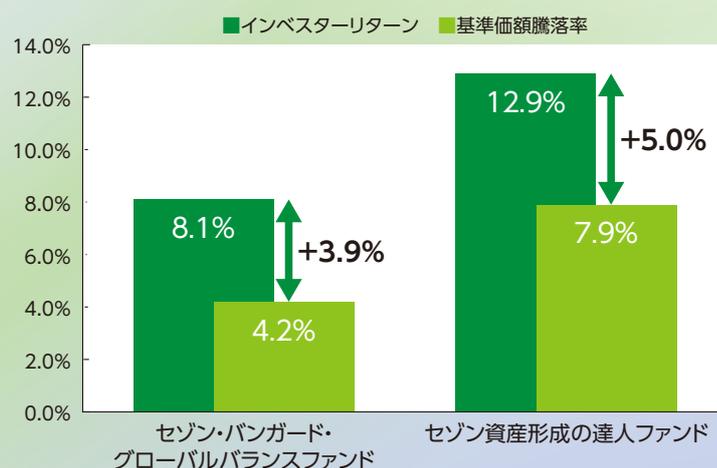
※各窓口の詳細は契約締結前交付書面に記載しています。

5. その他 (当社の考え方とその実績を示す参考資料)

ファンドのインベスターリターンと基準価額騰落率の差

「基準価額騰落率」は投資家が一定期間そのファンドを保有し続けたと仮定した場合の収益率です。しかし投資家が実際に得た収益は売買のタイミングによって異なります。

一方「インベスターリターン」は実際の投資行動の結果、投資家が得た平均的な収益率です。ファンドを購入するにあたり「高値掴み」「安値売り」をした人が多ければ、インベスターリターンは低下します。反対に安値の時もコツコツと投資を継続した人が多ければインベスターリターンは向上します。



- ・設定開始から2021年3月末まで年245営業日として年率換算
- ・小数点第2位を四捨五入
- ・直販、公販を含む

口座開設年別損益状況分布

口座開設時期別に見た、損益がプラスのお客さまの割合を示しています。2021年3月末基準では99.4%のお客さまがプラスの結果となりました。当社では資産形成において「長期・積立・国際分散」の投資行動が重要であると考えております。実際に、全体のお客さまのうち約6割が定期積立プランを利用していることも、安定した成果の要因と考えられます。(一般的には保有期間が短い場合、短期的な価格変動を受けやすく、保有期間が長い場合、リターンが安定する傾向にあります。)

